

防災・安全安心分野 政策2 「安全安心な暮らしの確保」

1 目指す姿

(1) 火災や事故など日常に潜む災害による被害が軽減している。

有効な火災予防対策が講じられるとともに、火災や事故などに迅速、かつ的確に対応できる消防救助活動体制や救急救命体制が充実している。

<課題解決が進まない場合>

火災発生時の被害が拡大するとともに、事故発生時等の救命率が低下している。

消防訓練への参加者や消防団員の減少などにより、火災発生時の被害が拡大するほか、救急需要の増加に対応できず、救急患者の搬送や受入に支障をきたす。

(2) 市民が身近な生活において安全や安心を実感している。

市民一人ひとりの防犯や交通安全に対する意識が向上し、地域ぐるみで安全活動に取り組むことで、交通事故や犯罪、消費者被害が減少するとともに、日常生活のトラブルに関する相談体制が充実し、市民が安心して生活している。

市民が安全や安心を実感できていない。

市民一人ひとりの防犯や交通安全に対する意識が向上せず、地域一体となった安全活動の取組が進まないことで、交通事故や犯罪、消費者被害が減少しない。

<参考> 現状分析・社会潮流（※基本構想原案には、重視すべき項目を中心に抜粋して記載）

		好影響	悪影響
内部環境 (地域特性)	強み (+)		弱み (-)
	機会 (+)		脅威 (-)

別紙参照

2 目指す姿を実現するための方向性

<参考> 現総合計画の施策[第4次実施計画の該当ページ]

- A 消防・救急救助体制の充実[P130]
- B 火災予防対策の推進[P131]
- C 災害に強い都市空間の創出[P132]
- D 暮らしを守る活動の充実[P135]
- E 防犯・交通安全意識の普及啓発[P135]
- F 安心できる消費生活対策の推進[P136]

3 市民、地域、企業・団体に期待すること

※ 姫路市まちづくりと自治の条例に規定する基本原則（協働の原則）に基づき、市民、地域、企業・団体それぞれの主体にまちづくりにおける協働をお願いするもの。

(審議会において) ご意見をいただきたい事項

- 1 「目指す姿」について
- 2 「目指す姿を実現するための方向性」について
<主な検討課題>
 - ア 消防救急体制を維持するためには？
 - イ 有効な火災予防対策とは？
 - ウ 市民の防犯・交通安全意識を向上させるためには？
 - エ インターネットによる犯罪をはじめ、手口が複雑、巧妙化する中、消費者被害を減らすには？
 - オ 更生を目指す人を孤立させないためには？
- 3 「市民、地域、企業・団体に期待すること」について

		好影響	悪影響
内部環境 (地域特性)	強み (十)	<p>【消防・救急・救助】</p> <p>① 消防団員の充足率が高い</p> <p>② 管内に山岳、河川、海、島しょなどを擁し、それらの地理的特性に応じた消防・救急車両、消防職員の配置</p> <p>③ 管内に市街地、工業地が立地、また姫路城をはじめとする多彩な文化財が存在すること等を踏まえた消防・救急車両、消防職員の配置</p> <p>④ 災害弱者等に配慮した119番通報の付加機能の充実</p> <p>【安全安心】</p> <p>⑤ 市内の刑法犯認知件数が減少傾向</p> <p>⑥ 市内の人身交通事故件数の減少</p> <p>⑦ 地域での自主的な安全安心活動の実施</p> <p>【更生支援・消費生活】</p> <p>⑧ 更生保護法人がある</p> <p>⑨ 地域包括支援センターや民生委員・児童委員などが高齢者や障害者の見守りを実施</p> <p>⑩ 子どもたち(幼・小・中・高)への消費者教育の実施</p> <p>⑪ 相談の掘り起こしによる消費被害の未然防止や早期救済 (行政や民間各種団体による啓発活動の実施や地域包括支援センターなどによる見守り強化)</p>	<p>【消防・救急・救助】</p> <p>① 若い消防団員の不足</p> <p>② 消防団間の地域格差</p> <p>③ 救急出場件数の増加</p> <p>【安全安心】</p> <p>④ 防犯ネットの不審者情報等の配信がなくなる</p> <p>⑤ 市内の人身交通事故件数に占める高齢者の割合が増加</p> <p>【更生支援・消費生活】</p> <p>⑥ 消費生活相談件数が多く、相談全体に占める高齢者の割合が増加</p> <p>⑦ 情報発信においてSNSの活用など若い世代に未対応</p> <p>⑧ 消費者教育の担い手が少ない(教職員、消費者団体、市民グループ、NPOなど)</p>
	機会 (十)	<p>【消防・救急・救助】</p> <p>① 消防応援体制の整備</p> <p>【安全安心】</p> <p>② 全国の刑法犯認知件数の減少</p> <p>③ 全国の人身交通事故件数の減少</p> <p>【更生支援・消費生活】</p> <p>④ 情報化の進展による消費者の利便性向上(ネットショッピング、口コミ等の活用)</p> <p>⑤ 国による被害救済制度や関連法の整備、法の適切な執行による違反行為の是正</p> <p>⑥ 地方自治体の消費生活相談窓口の信頼度が上昇傾向</p>	<p>【消防・救急・救助】</p> <p>① 高齢化等による救急出場件数の増加</p> <p>【安全安心】</p> <p>② インターネットの進展に伴うサイバー犯罪の増加</p> <p>③ 見守りの担い手の高齢化、固定化、メンバーの減少により地域の見守り活動の実施が困難</p> <p>④ 交通事故全体に占める高齢者の割合が増加</p> <p>【更生支援・消費生活】</p> <p>⑤ 検挙者に占める再犯者の割合、高齢者犯罪の増加</p> <p>⑥ 消費生活相談件数が多い</p> <p>⑦ 詐欺や悪質な訪問販売などの手口の巧妙化・複雑化</p>
外部環境 (社会潮流・分野動向・市民ニーズ)			